

(別添1)

【中能登町】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	1,210	1,160	1,130	1,100	1,060
② 予備機を含む 整備上限台数	0	0	1,299	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	0	1,130	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	0	1,130	0	0
⑤ 累積更新率	0%	0%	100%	102.7%	106.6%
⑥ 予備機整備台数	0	0	169	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	0	169	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	0%	15.0%	0%	0%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

県立学校、県内市町立学校ほぼ全てが Chrome book の継続または移行しているため、児童生徒の進学・転校した際に操作性の違い等で学びに遅延が生じないように OS を Windows から Chrome に移行する。複数年度での OS 移行は、教育現場に混乱を生じさせるため、令和8年度に全端末を更新する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,325 台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託 : 1,325 台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にも再使用・再資源化を委託 : 0 台
- ・その他 () : 0 台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

・自治体の職員が行う

・処分事業者へ委託する

○スケジュール (予定)

令和8年7月 処分事業者 選定

令和8年9月 新規購入端末の使用開始

令和8年9月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(別添2)

【中能登町】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

学校	児童・生徒数	推奨帯域 (Download)	測定帯域
鳥屋小学校	257人	408Mbps	457～581Mbps
鹿島小学校	352人	453Mbps	510～618Mbps
鹿西小学校	160人	323Mbps	429～547Mbps
中能登中学校	434人	482Mbps	502～633Mbps

※児童・生徒数は、令和6年12月25日現在

※測定方法は、集約SW直下での有線での帯域測定によるもの

※測定帯域は、複数回の測定における最小値と最大値

必要なネットワーク速度が確保できている学校数：4校

総学校数に占める割合：100%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

特別教室、ランチルーム等の普通教室以外に設置してある無線APは、接続台数が多くなると回線が不安定となるため機器の更新を行っていきます。

(別添3)

【中能登町】
校務DX計画

令和6年度の文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト（学校向け）」に基づく自己点検結果によると、「学校から保護者へ配信するお便り・配付物をクラウドサービスを用いて一斉配信している割合（半分以上）」が100%（全国平均48.9%）、「保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している割合（半分以上）」が100%（60.6%）となっており保護者との間ではデジタル化が進んでいる一方、「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務以外の日常の業務にFAXを使用している割合」が75%（全国平均77.1%）、「業務で押印が必要な書類がある割合」が100%（全国平均92.7%）と学校内での業務でデジタル化が進んでいない。

校務支援システムに関しては、本町を除く18市町が同一の校務支援システムを利用しており、18市町の次期更新時に合わせて本町も更新を行い統一を図る。一方、県立学校と校務支援システムが異なり、高校入試の際の調査書のデータ連携ができておらず、不必要な手入力が生じないよう県とも連携していきたい。

ネットワーク分離により校務用端末は職員室に固定されているため、教職員は校務用・学習用の2台を使用している。校務系と学習系のネットワーク統合が図られれば、教職員用端末の1台化、ロケーションフリーによる校務処理ができ、働き方改革が進むと考えられるため、調査・研究を進めていく。

(別添4)

【中能登町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をすすめている。「ICTを活用した教育」を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体に充実させることで、子どもたちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備えた持続可能な社会の作り手として、予測不可能な新しい時代を自立的に生きぬく資質・能力を育成することを目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に児童生徒用1人1台端末（Windows）を整備するとともに校内通信ネットワークの構築を行い、令和3年度より運用を開始した。その後、教職員用端末（Windows）を整備するとともに、各学校のネットワークについても不具合の原因を逐次明らかにしネットワーク環境の改善に取り組んできた。

これらICT環境の整備に加え、町教育委員会では、教員の研修の充実を図り、教員のICT活用指導力の向上に計画的・戦略的に努めてきた。具体的には、各校GIGA校内推進リーダーを中心に複数教員で構成された担当分掌がGIGA対応に向けた校内研修を計画・運営すると同時に、町リーダー研修会等で各校の実践共有を重ねてきた。令和4年度からは町研修会で作成した「教員スキルアップマップ」を通して、授業担当教員が20項目のICTスキル達成を目標に掲げる意識を高めてきた。この取組を通して、本町における教員のICT活用指導力（文部科学省：「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」）は年々向上している。「教員スキルアップマップ」は年度ごとに項目内容を改善しており、令和6年度に新たに追加した児童生徒のスキル・リテラシーに係る項目も含め、町全体の今後の取組に生かしていく。

令和5年度には町立小中学校各1校が県ICT活用推進に向けた研究モデル校の指定を受け、公開授業研究会を開催した。児童生徒が1人1台端末やデジタル教科書などICTを効果的に活用する授業づくりを研究実践するとともに、指導及び活用方法を共有することで町全体のICT活用指導力の向上を図ることができた。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

ほぼ毎日、授業で1人1台端末を活用した授業が行われている。小学校では1人1台端末の持ち帰りが日常的となり、家庭での活用が着実に増えてきた。今後、学校・家庭での活用が定着した児童が中学校に進むことで、中学校でも家庭での活用に期待がも

てる。また次期端末がChrome bookになることで近隣の学校との繋がりが容易になると考え、他校との交流学习に積極的に取り組むことは可能になる。

このほか、放課後児童クラブ、児童館でも1人1台端末の利用ができるような環境を整備する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

個別最適・協働的な学びの一体的な充実に向けて、児童生徒が自身の考えに合わせた学習内容や学習方法を選択し、主体的に学習する場を意図的・効果的に設定した単元づくりに取り組んでいる。各学校では、ICTの新たな可能性を取り入れた1人1台端末の効果的な活用を生かす授業改善の研究を進めている。それぞれの校内研修の充実を図りながら、効果的な実践事例を町全体研修で共有する場を設定するとともに、町内他校の授業研究会への参加体制を整えて授業力向上につなげていく。さらに1人1人の児童生徒の実態に応じたより良い学びの実現に向けて、「複線型の学び」「自由進度学習」「共同編集」等、リーディングDX指定校等の先進的な取組について紹介し、各学校での研究が深まるように計画していく。

(3) 学びの保障

1人1台端末を活用して、誰一人取り残さない教育への支援を進めていく。特に不登校の児童生徒が取り残されないように授業のライブ配信、アーカイブ配信、教育相談など様々なICTの活用法の実践を進めていきたい。